

オトギリソウ科 オトギリソウ属

コケオトギリ (苔弟切)

Hypericum laxum (Blume) Koidz.

自生環境

湿地、あぜ など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



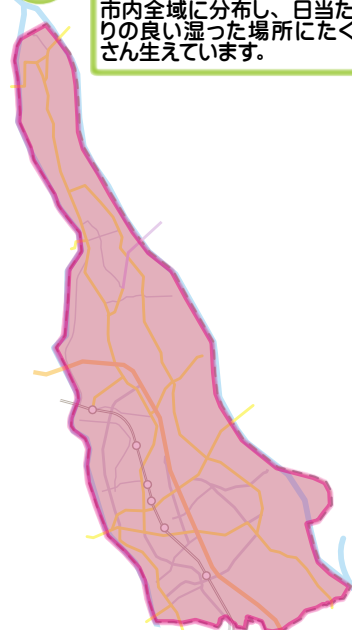
身近な場所に生えるため、土地の開発やアスファルト化、除草剤の使用など、人間活動の影響を受けやすい傾向にあります。また背の高い草との競争にはあまり強くありません。

特徴

- ☆ 日当たりの良い湿った場所に生える、小さな1年草です。茎は細く、いくつも枝分かれしながら高さ3~10cmほどになります。名前は「苔のように小さなオトギリソウ」という意味があります。ただ生える環境によっては、背が高くなって 30cm くらいになることもあります。
- ☆ 夏~秋、茎の先に直径5~8 mm ほどの小さな黄色い花を咲かせます。花は朝開き、午前中のうちには閉じてしまいます。雄しべは5~10本ほどで、束にはならず、バラバラにつきます。花のすぐ下に「苞葉」がありますが、コケオトギリでは、葉と苞葉のかたちはほぼ同じです。
- ☆ 晩秋になると、草全体が真っ赤に色づいて「草もみじ」となります。また葉のわきに「むかご」をつくり、これが地面に落ちると来年用の子株になります。

市内の分布状況

市内全域に分布し、日当たりの良い湿った場所にたくさん生えています。



葉の黒点と明点にも注目

オトギリソウの仲間は、葉などに黒点や明点があり、その有無が、見分けポイントのひとつにもなっています。ちなみに明点は黒くない点で、光に透かすと、明るく白っぽい点に見えるものです。コケオトギリの葉には黒点はなく、明点があります。

ちなみにオトギリソウの黒点には、「鷹匠が秘密をもらった弟を斬ったときに飛び散った血しぶきが残ったもの」という伝説があります。



苞葉

葉

苞葉は葉と同じかたち



雄しべは5~10本

がくや花びらに黒点はない

花は朝開き、午前中でしぼむ



果実は熟すと赤くなる



茎は細かく枝分かれしてクッションのようになる



葉に黒点はない

葉は小さく0.5~1cm くらい



枯れる前に鮮やかに紅葉する



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

